

# 日本語教育部門活動報告 1 ―日本語相談― (2007 年 4 月～2008 年 3 月)

加藤扶久美

## 1 はじめに

日本語教育部門では、2003 年度より毎週水曜日の昼休みを利用して、日本語教育部門の教員が留学生からの日本語に関する相談や質問に答える「日本語相談」を実施している。この相談時間に、学生たちは、様々な日本語に関する質問、小論文の練習、漢字の練習、授業に関連した作文等の添削やスピーチ練習の目的で利用しに来ており、授業以外の日本語学習支援の一環として一定の効果を挙げている。

ここでは、開始から 5 年目となる 2007 度の「日本語相談」の実施状況について報告する。

## 2 「日本語相談」の概要

日本語相談の概要は次のとおりである。

### 1) 実施場所

留学生センター 1 階談話室において実施した。

### 2) 実施期間および実施日時

毎週水曜日の昼休み 12 時から 13 時までの時間を利用して実施した。2007 年度は、前期に 2007 年 5 月 9 日 (水) から 7 月 25 日 (水) までの 12 回、夏季休業期間中に 2007 年 8 月 1 日 (水)、8 日 (水)、22 日 (水)、29 日 (水) の 4 回、後期に 2007 年 10 月 24 日 (水) から冬季休業をはさんで 2008 年 1 月 23 日 (水) までの 12 回実施した。

夏季休業期間中については、学生の要望に応え、2004 年度から実施している。

### 3) 担当者

日本語教育部門の教員 4 人 (加藤、深澤、濱田、後藤) が、1 回ごとに交代して担当した。

## 3 「日本語相談」の実施状況

### 3.1 「日本語相談」への来談者

相談に訪れた来談者の数を表 1 にまとめた。前期の来談者数を学部別に見ると、2006 年度までと同様に経済学部の学生の利用が最も多い。これは、「日本語相談」の中で、大学院入試の小論文科目のための練習を行っていることによる。経済学研究科の大学院入試には小論文が課されており、この対策として日本語相談を利用している学生が多いためだと考えられる。夏季休業期間中と後期は、人文学部の学生の利用が最も多く、年度全体で見ると経済学部の 16 人の 2 倍を超える 35 人の利用者があった。それは、日本語能力試験 1 級受験のための漢字・語彙練習に「日本語相談」が利用されたからである。

### 3.2 相談内容

相談に訪れた学生の相談内容を表 2 にまとめた。

前期および夏季休業期間には、2006 年度までと同様に、大学院入学試験科目「小論文」の練習として書いた作文の添削が多かった。後期には、日本語能力試験 1 級受験のための漢字・語彙練習が増えた。修学上・生活上の質問・相談の内容は、少なかった。

このように、大学院入学試験や日本語能力試験の受験を目指して、留学生が自主的・計画的にその相談の場として「日本語相談」を利用するケースが増えてきており、この日本語相談の時間が有効に機能してきていると言えるだろう。

表1 所属別来談者数

(単位：人)

	人文学部	人間発達科学部	経済学部	理学部	工学部	その他	合計
前 期	9	0	13	0	2	2	26
夏季休業期間	3	0	2	0	0	1	6
後 期	23	0	1	0	3	0	27
合 計	35	0	16	0	5	3	59

表2 相談内容別件数

(単位：件)

内 容	前期	夏季休業	後期	合計
大学院入試科目「小論文」のための練習	13	0	0	13
授業に関連した作文等の添削, スピーチ練習	3	4	2	9
進学・就職活動に関連した作文や論文の添削	0	1	0	1
漢字, 会話などの練習, 復習	8	1	22	31
文法や勉強法などに関する質問	0	0	1	1
進学・就職活動のための面接に関する質問	0	1	0	1
注文書などの書類についての質問	1	0	0	1
修学上・生活上の質問・相談	1	0	1	2
その他	0	0	1	1
合 計	26	*7	27	*60

\*1人の相談者からの複数の相談内容を個別に1件としたので、来談者数よりも多い。

#### 4 小論文の書き方コース

留学生センターでは、留学生センター公式サイトとは別に、富山大学で学ぶ留学生の日本語学習を支援するために日本語学習支援サイト RAICHO を開設している（「日本語教育部門活動報告2－日本語学習支援サイト RAICHO－」を参照）。この RAICHO サイト内に「小論文の書き方コース」というコンテンツを設け、大学院入学試験の小論文科目のための必要な情報を提供するとともに、実際に練習を重ねるための課題も提示している。

この「小論文の書き方コース」を利用する学生は、まず「日本語相談」に来てコース登録をし、担当教員と相談の上、それぞれに適した内容・レベルの課題を決める。そして次の週までにその課題を仕上げて、「日本語相談」の場で添削・指導をしてもらうという流れになっている。今年度は3人の学生がこのコースに登録し熱心に課題に取り組んだ。

#### 5 おわりに

「日本語相談」の実施も2007年度で5年目となり、相談の内容も、大学院入学試験の準備、授業に関連した質問、就職活動に関連した質問、留学生活を送る上での相談と多岐にわたっている。このように、日本語の学習や専門課程での学習・研究に関する質問・相談だけでなく、進学や就職も含めた広い意味での留学生活に関わる相談の場として「日本語相談」が活用されるようになってきており、留学生の学習・研究面を主とした支援体制として有効に機能していると考えられる。

ただ、この「日本語相談」の実施場所は五福キャンパス留学生センターであり、利用者が五福キャンパスの学生と、杉谷・高岡キャンパスから日本語研修コース、日本語課外補講等に通っている学生に限られているのが現状なので、「日本語相談」を希望するすべての学生が、何らかの方法で「日本語相談」が受けられるような支援方策を模索していきたい。